

平成24年度 岩美高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

地域貢献・地域との連携がどの学校でも求められているが、岩美高等学校は立地状況もあり岩美町に的を絞って行われ、他の高等学校には真似のできないところが多く見られる。各種の学校独自事業に岩美高等学校カラーがしっかり出ており、成果もあがっている。特に、キャリア教育に関しては経年的に優れた成果をあげている。

一昨年度に「岩美高宣言」を発表する等、ケータイ・インターネット教育に力を入れてきている。TEAS（テス：鳥取県版環境管理システムの愛称であり、環境配慮活動の取り組みを一定の基準をもとに審査・登録する制度）委員会の設置やTEAS検定等、環境保全についての活動がしっかりなされ、全校体制で真摯に取り組んでいる姿勢は立派である。総じて、教職員全体が岩美高等学校を良くしていこうとしている熱意が感じられる。

落ち着いて教育ができる環境を作らねばならないと、生徒指導や部活動指導の充実に具体的な目標を置き、次に学習習慣の確立を目指して教職員集団も結束して学校作りが集中的に行われてきた。今後は、次のステップとしてどこに目標を置き、生徒に何を求め、教職員が何を中心に学校を運営していくのかを明確にしていく時期に来ていると考える。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① すれちがう生徒達は服装もきちんとしていて、挨拶もしっかりできていた。授業が普通に行えるように、生徒指導に力を入れてきた成果が現れてきている。さらには、生徒側と教職員側との相互理解に基づいた生活態度の一層の向上を期待する。
- ② 生徒の基礎学力の向上や学習習慣の定着を図る手段として、イワツツ検定試験（国語・数学・英語・社会で実施する基礎学力定着度を測るための学校独自の試験）やリスタート学習（基礎知識・基礎学力の確実な定着を図る学習）を粘り強く行い、生徒の進路選択の拡大に寄与すべく教職員集団が一致団結して取り組んでいる。
- ③ キャリア教育を通して、生徒の労働観の育成、進路選択に資する取り組みは評価に値する。実績をもっと外に発表していくことを期待する。
- ④ 生徒会を中心にケータイ・インターネット教育啓発推進に取り組んでいることは、社会人としての意識付けの効果が期待できる。一昨年度の「岩美高宣言」などは他校も見習いたいものである。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 学習や生活面での生徒指導が成果をあげている中、部活動における教職員の指導の行き過ぎがあり、特に体罰につながった行為は反省すべきことである。併せて、迅速に管理職に報告があがる体制を整えることが必要である。
- ② 校訓や学校教育目標を常に生徒が見える場所に掲示し、生徒の意識付けを日頃から行っていく必要がある。また、教室や廊下掲示にも気を配り、学習環境を工夫し整えることを期待する。
- ③ 交通が止まった時や災害時における、生徒の安全を守る手順の検討を早期に行う必要がある。